

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

| | 項目数 |
|--------------------------------|-----|
| 理念に基づく運営 | 11 |
| 1. 理念の共有 | 2 |
| 2. 地域との支えあい | 1 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | 3 |
| 4. 理念を実践するための体制 | 3 |
| 5. 人材の育成と支援 | 2 |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 2 |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 1 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 1 |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 6 |
| 1. 一人ひとりの把握 | 1 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 2 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 2 |
| その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 11 |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | 9 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 2 |
| 合計 | 30 |

自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

| | |
|-------|---------------------|
| 事業所番号 | 671800167 |
| 法人名 | 社会福祉法人 尾花沢福祉会 |
| 事業所名 | ハイマート福原グループホーム |
| 訪問調査日 | 平成 21年 1月 22日 |
| 評価確定日 | 平成 21年 2月 13日 |
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 エール・フォーユー |

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 2月13日

【評価実施概要】

| | | | |
|---------------|---|-------|------------|
| 事業所番号 | 671800167 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 尾花沢福祉会 | | |
| 事業所名 | ハイマート福原グループホーム | | |
| 所在地 (電話番号) | 山形県尾花沢市大字野黒沢554番地の35 (電話) 0237-24-2102 | | |
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 エール・フォーユー | | |
| 所在地 | 山形市檀野前13-2 | | |
| 訪問調査日 | 平成21年1月22日 | 評価確定日 | 平成21年2月13日 |

【情報提供票より】(平成20年11月30日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|--------------|--------------|--------------|
| 開設年月日 | 平成 15年 3月 6日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 18 人 |
| 職員数 | 16 人 | 常勤 16 人, 非常勤 | 人, 常勤換算 16 人 |

(2) 建物概要

| | | |
|------|----------------|----------|
| 建物形態 | 併設 / 単独 | 新築 / 改築 |
| 建物構造 | 鉄筋コンクリート=PC 造り | |
| | 1階建ての | 階 ~ 1階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|-----------------|----------------|----------------|
| 家賃(平均月額) | 15,750 円 | その他の経費(月額) | 光熱水費 80円 / 日、他 |
| 敷金 | 有(円) | 無 | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(円) | 有りの場合 償却の有無 | 有 / 無 |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ 円 |
| | または1日当たり 1,400円 | | |

(4) 利用者の概要(11月30日現在)

| | | | | | |
|-------|-----------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 18 名 | 男性 | 4 名 | 女性 | 14 名 |
| 要介護1 | 4 名 | 要介護2 | 5 名 | | |
| 要介護3 | 8 名 | 要介護4 | 0 名 | | |
| 要介護5 | 1 名 | 要支援2 | 0 名 | | |
| 年齢 | 平均 83.8 歳 | 最低 | 70 歳 | 最高 | 93 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|-----------------------|
| 協力医療機関名 | 尾花沢市中央診療所 大類歯科医院 大類昭夫 |
|---------|-----------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは同一法人が運営する介護老人保健施設に隣接し、広々とした自然豊かな眺望の地に立地され、菜園や花壇等を共有し、利用しながら互いの機能の活用等の連携を図り相互提供をしている。周囲にはスイカ畑が一面に広がり、まさに自然と一体となり日々の暮らしが明るく、ゆったりした雰囲気の中で繰り広げられ、利用者として職員の家族としての関わりを持ちながら、何をしたいのか、何を思っているのか「尊厳」を重視し支援をされているホームです。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|------|---|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 事業所独自の理念の中に地域性を考慮し「協力」という2文字を新たに加え、地域の人たちとの交流を設け改善に取り組まれている。 |
| 重点項目 | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 全職員が自己評価に関わることで、自分の出来るものや改善するもの等が見え意識の向上、サービス改善に繋がっている。 |
| 重点項目 | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) |
| | 運営推進会議は家族代表や地域住民代表(区長、民生委員)尾花沢市包括支援センター所長等の参加を得て、2ヶ月に1回定期的開催され、話し合いの他に他事業所への施設見学を行う等サービス向上に活かされている。 |
| 重点項目 | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) |
| | 家族等の来訪時や運営推進会議のメンバーに家族代表も参加しており、常に意見や要望等の言いやすい関係作りを築き、利用者との繋がりを大切に配慮され運営の改善を図っている。 |
| 重点項目 | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| | 隣組に加入し、ホームの行事には家族を初め、地域の人たちやボランティア等を積極的に受け入れ盛大に行われている。地域の小学校の運動会等に参加したり、グループホーム(利用者の生活状況等)に対する理解を深めながら交流を図っている。 |

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|--|---|-------|----------------------------------|
| . 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | ホーム独自の理念として「安心 笑顔 協力 信頼 真心 尊厳」を掲げ、地域の中で安心して生活が送られるよう、家族や地域の人たちとの交流を深め、連携のとれたホームを目指し運営されている。 | | |
| 2 | 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念は事務室前や職員休憩室に掲示し、「尊厳を大切に耳を傾ける姿勢、利用者の笑顔を大切に」等に心がけ、職員会議やユニット会議、各委員会等で話し合い、確認をされ日々のサービスに活かしている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 隣組に加入し、ホームの行事には家族を初め、地域の人たちやボランティア等を積極的に受け入れ盛大に行われている。地域の小学校の運動会等に参加したり、グループホーム(利用者の生活状況等)に対する理解を深めながら交流を図っている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 全職員が自己評価に関わることで、自分の出来るものや改善するもの等が見え意識の向上、サービス改善に繋げている。 | | |
| 5 | 8 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は家族代表や地域住民代表(区長、民生委員)尾花沢市包括支援センター所長等の参加を得て、2ヶ月に1回定期的開催され、話し合いの他に他事業所への施設見学を行う等サービス向上に活かされている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|---|-----|----------------------------------|
| 6 | 9 | 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 尾花沢市サービス担当者会議等に参加し交流を図っている。生活保護の方が居るため、担当職員の月1回の訪問等も有り連絡を取り合っている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 家族等の来訪時や定期的な機関紙「ねまらっしゃい」(年4回発行)に、行事や毎日の生活の様子等を写真を交え報告をしている。 | | |
| 8 | 15 | 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族等の来訪時や運営推進会議のメンバーに家族代表も参加しており、常に意見や要望等の言いやすい関係作りを築き、利用者との繋がりを大切に配慮され運営の改善を図っている。 | | |
| 9 | 18 | 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 担当制をとり顔馴染みの職員による関わりを心かけている。開所当りからの職員の異動は無く、新人や法人内の異動により配属の場合は顔を覚えてもらえるまでゆっくり時間をかけ、人間関係の円滑化に努めている。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 県グループホーム連絡協議会の研修会に参加をしたり、厚生委員が中心となり、ユニット会議や各ミーティング等での内部研修も行われ、資格取得のための受験や研修にも参加できるよう育成を図っている。 | | |
| 11 | 20 | 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム最上地区部会(5事業所)のネットワーク作りの理事をしており、研修会、交換実習等を初め相互訪問や職員同士の交流会も活発に行われ、事業所間同士の振興を深め協働しながら質の向上に繋げている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|----|--|--|-----|-----------------------------------|
| .安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | 【小規模多機能型居宅介護のみ】 馴染みながらのサービス 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 同一法人の老健施設と共有している菜園や花壇の管理、収穫等のアドバイス、農機具の使い方や煮物料理等の味付けを教えてもらったり、それぞれの得意分野を引き出し、互いに協働しながら生活できるような場面に配慮されている。 | | |
| .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 一人ひとりの思いの言葉にはしっかり耳を傾け、一方的な関わりにならないよう心掛けている。思いを言えない人や特に帰宅願望の人には強制せず表情や行動より察知し、気づきや情報の共有を図りながら見守りを行っている。家族等からの情報はセンター方式を利用し把握に努めている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 家族等からの情報を得ながら個人のその時点に添った個別の具体的な介護計画を作成し、家族より確認印をもらっている。毎日、利用者全員のプランに対する記録と生活記録を残し情報提供と介護計画の作成に活かしている。 | | |
| 16 | 37 | 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 定期的な見直しや月1回のケース会議の中で個別プラン作成時のポイントとして「認知症の進行防止やいきいきとした表情の中に笑顔が見られる環境づくり」を掲げ、日々のサービスの気づきや情報の共有を全員で行っている。また、予防的計画見直しとして理学療法士等の他職種協働との連携を図りながら清掃後に足、腰のリハビリ体操等を行っている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--|----|--|--|-----|----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用) | | | | | |
| 17 | 39 | 【小規模多機能型居宅介護のみ】 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる | | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している | 通院介助等を開所より事業所が行っており、家族等 との受診結果に関する報告や情報等の共有がしっかり 出来ている。かかりつけ医とは毎月1回利用者の生活 記録(バイタル等)を持参し、常に連携を取っている。 | | |
| 19 | 47 | 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している | 本人や家族等の状況変化に応じ、早い段階より繰り返 し話し合いをもたれ、緊急時マニュアルを基に法人内 の看護師やかかりつけ医等との連携を図りながら職員 全員での支援体制が出来ている。 | | |
| . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない | 尊厳を念頭に入れ目立たず、さりげない言葉かけや対 応に配慮し、記録等も事務室に保管され秘密保持の 徹底が図られている。 | | |
| 21 | 52 | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりの生活のリズムを大切に、その人らしい生活 が出来ることを基本とし、職員の情報や気づきに留意し 外出等の希望も受け入れたり個別性のある支援を行っ ている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------|----|---|--|-----|----------------------------------|
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事は毎日の生活の中でも重要な位置にあり、利用者 と職員がテーブルを一つにし同じ物を楽しく食べるこ とや、敷地内の畑で収穫されたものを採り入れたり、おや つ作りに精を出したり、毎月の外食コースの楽しみ等の 「食」を通じた取り組みをしている。 | | |
| 23 | 57 | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわず に、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入 浴を楽しめるように支援している | 一番風呂や入浴剤使用、湯加減の調節や入浴回数等 一人ひとりの好みやこれまでの習慣に耳を傾け、全員 での共有を図りながら個別にあった入浴支援が行われ ている。 | | |
| (3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみご と、気晴らしの支援をしている | 毎日の暮らしを共にする中で、洗濯物たたみや園芸、 農作業等への関わりから興味や活力を引き出し、役割 を大切に利用者にあった場面作りや支援が出来て いる。 | | |
| 25 | 61 | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその 日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援 している | 個別支援 = 利用者本位の外出支援を軸として、本人 のやりたいことや、出来ること、出かけたいことをいつ も受け入れ、生活習慣を考慮しながら支援をしている。 | | |
| (4)安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵 をかけることの弊害を理解しており、環境や利用 者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に 過ごせるような工夫に取り組んでいる。 | 利用者一人ひとりの外出傾向を把握し、出ていく気配 を見落とさない見守りを全職員が認識し取り組んでい る。 | | |
| 27 | 71 | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより 地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 年1回の全体での総合訓練は利用者を交え、消防署 や消防団等、近隣住民、区長さん等の参加、協力を得 て実施をしている。さらに事業所独自でも夏季、冬季と 細部に亘っての訓練を行っている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------|----|--|---|-----|-----------------------------------|
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 暮らし全体を通じた食の支援の一つとして、季節感を表わし、目で楽しみ、食をそそる、美味しく食べてもらえるようにとの配慮があり、食生活への様々な支援が見られる。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 五感刺激への配慮からホール天井には「すだれ」が利用されており、季節柄風揚げ用の風の絵柄が数ヶ所に吊られており、ゆったりと優しく利用者を見守っている様子がうかがえる。 | | |
| 30 | 83 | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室には馴染みのものを持参し、安心してその人らしく過してもらうための配慮がされており、グループホームらしくないホーム＝居心地の良い住み家となっている。防災のれんや防災カーテンを使用し安全面にも配慮している。 | | |